



地域の課題解決に向けて、
挑戦し続ける。

安城更生病院 心不全 多職種 チーム

2
特集



「心不全」は高齢の方を中心に急増しており「**心不全パンデミック(大流行)**」ともいわれています。心不全は再入院が多く、患者さんのQOL※の悪化が問題とされています。この問題を地域全体の課題ととらえ積極的に活動しているのが安城更生病院の心不全多職種チーム(以下、心不全チーム)です。今回はチームの取り組みをご紹介します。

※QOL…Quality of Life(クオリティ・オブ・ライフ)の略称。医療現場では患者さんの身体的・精神的・社会的などすべての生活の質を意味する。

トピックス

1 患者さんの情報を一括で把握できる「心不全テンプレート」

チーム発足後、「心不全テンプレート」を作成しました。これまで各職種が各々の手段で指導内容を入力していたカルテ記載を、テンプレートに集約・管理することで**患者さんに必要な情報がすぐにたどり着ける**ようになりました。



▲電子カルテに入力する「心不全テンプレート」

何を記載してどう運用するか、最初は全くの手探りでしたが、何が患者さんのためになるのかを考えて数回バージョンアップを繰り返して今に至ります。

2 「心不全」を知ってもらう・共有する積極的な対外活動で幅広い方々へ情報発信

心不全患者さん・ご家族への情報発信だけでなく、早期発見に向けた地域への啓発活動や医療従事者への情報共有も積極的に行っています。

更新するのは大変ですが、心不全に関わる全国の医療従事者、そして心不全患者さんとそのご家族に少しでも役立つ情報が共有できれば嬉しいです。



▲登録1,280名は以上。療養生活支援のための内容を発信中

「心不全チーム」の立ち上げ

心不全を悪化させないためには、リハビリや食事(塩分過多)、薬の管理(飲み忘れ)など患者さんが行う自己管理も重要です。しかし、これまでの生活を見直し継続していくことは簡単なことではありません。患者さんの病状と生活に合わせた管理をしていくためには、**医師を含めた専門知識をもつ多職種スタッフの協力が必要不可欠**なため、2015年から心不全チームを立ち上げ、院内外で積極的に活動しています。

心不全チームで活躍する各職種の主な役割

診療の統括をしています。

医師

服薬指導・認知機能の評価・薬剤適正使用のチェックをしています。

薬剤師

栄養指導・低栄養や食思不振への対応をしています。

管理栄養士

患者さんの不安や塞ぎ込みがちな気持ちに寄り添い、支援しています。

心理士

ケアの統括
・生活指導
・日常生活動作の評価をしています。

看護師

悪化を防ぐリハビリや運動指導をしています。

理学療法士

退院後の社会的サポートの調整・転院や施設との連携を行っています。

ソーシャルワーカー／退院コーディネーター

3 「心不全パンデミック」に向けた地域との連携の輪

心不全の管理は、退院後の方が長く重要です。心不全と上手に付き合うためには地域のかかりつけ医療機関との連携が欠かせません。そこで、**患者さんのケアに関する情報も地域と連携**できるよう、紹介状の仕組みを整えたり、地域の医療従事者を対象とした勉強会や保険薬局とのワークショップを定期的に開催するなど、**安城市だけでなく西三河全体でより良い心不全管理**が行えるように取り組んでいます。



▲積極的に学会発表や論文投稿・講演会活動を行っています



▲他施設からの見学依頼にも対応しています。3年間で12件の施設見学に対応しました



▲安城市が開催する「あんじょう健康大学」では、心不全がどんな病気、どう予防すればいいのかをお話しました



▲地域全体のレベルの底上げを目的に開催している「西三河心不全多職種連携セミナー」。連携の輪が広がっています

メッセージ

当チームの強みは、各スタッフが意見を言いやすく、お互いを理解しようという風土があるところです。多職種が有機的に結びついていることが、身体機能低下の防止と入院期間短縮に繋がっていると感じています。新たな知見も取り入れつつ、チーム全体が広い視野を持って、この活動を続けていきたいと思っています。



循環器内科代表部長
植村 祐介さん

この2つを大きな目標に活動しています！



心不全チームの目標

- 01 患者さんの身体機能なるべく低下させない
- 02 西三河地域の包括ケアに貢献する

週1回のカンファレンスでは患者さんの多岐にわたる問題点への対応を協議しています。